

CHURCH WORLD SERVICE
Pakistan / Afghanistan

Symposium

The Great East Japan Earthquake and International Standards for Humanitarian Support

Quality & Accountability in Use: Asian Perspectives
 31 January 2012, Tokyo
 Uma Narayanan & Jamie Munn

The Sphere Project HAP Humanitarian Accountability Partnership

CHURCH WORLD SERVICE
Pakistan / Afghanistan

Session Outline

- 1.** Challenges & Implications
- 2.** Tactics
- 3.** Long Term Action

The Sphere Project HAP Humanitarian Accountability Partnership

CHURCH WORLD SERVICE
Pakistan / Afghanistan

What is Sphere

Aims to improve quality of action during disaster response and to be held accountable for them

Those affected by disaster or conflict have a right to life with dignity and, therefore, a right to assistance

All possible steps should be taken to alleviate human suffering arising out of disaster or conflict

The Sphere Project HAP Humanitarian Accountability Partnership

CHURCH WORLD SERVICE
Pakistan / Afghanistan

What is HAP

Accountability is the *responsible* use of power

Accountability is about the right to a say and a duty to respond. This means:

- ◇ taking account of....
- ◇ giving account to....
- ◇ being held to account by....

affected populations

An accountable organisation manages the quality of its products and services, and strives to continuously improve these for the benefit of its customers, clients or affected populations

The Sphere Project HAP Humanitarian Accountability Partnership

CHURCH WORLD SERVICE
Pakistan / Afghanistan

Challenges

- Lack of experience
- No adherence to standards
- Lack of people centered response
- Lack of accountability
- Varied quality
- Measuring compliance on quality
- Lack of coordination
- Measuring impact of Quality & Accountability

Source: National Geographic

The Sphere Project HAP Humanitarian Accountability Partnership

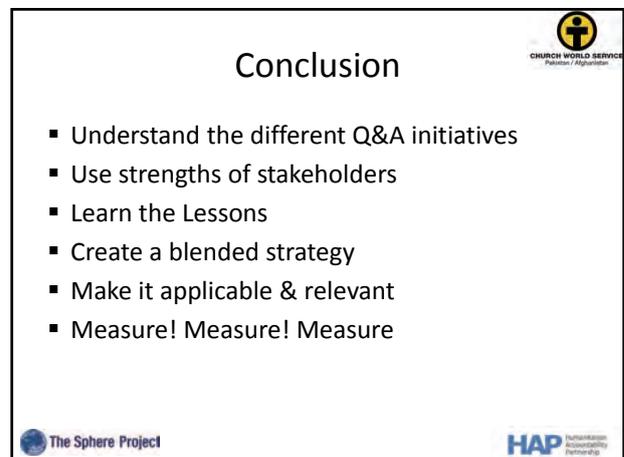
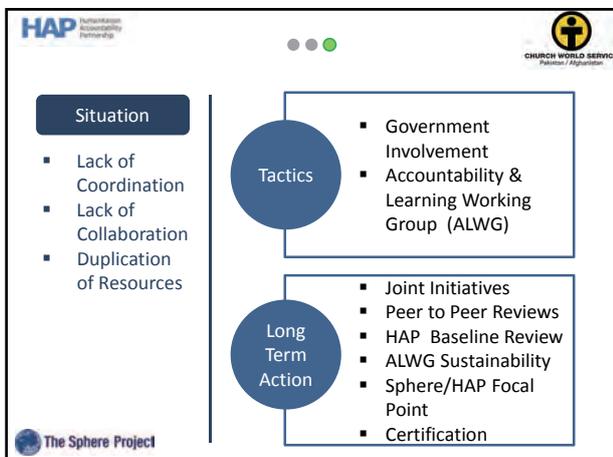
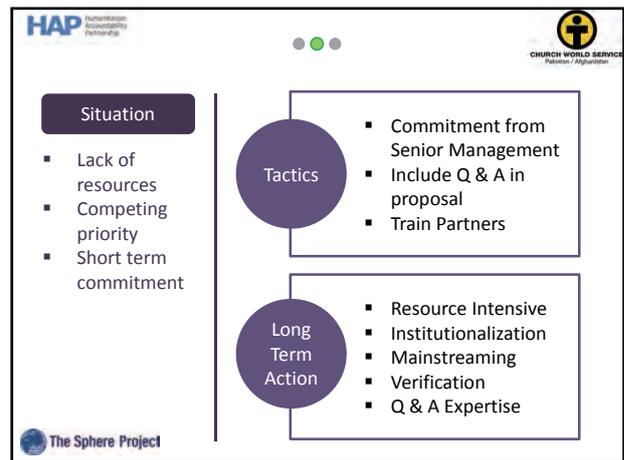
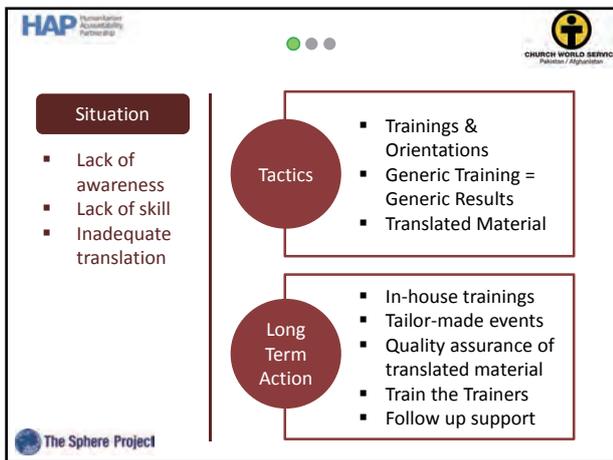
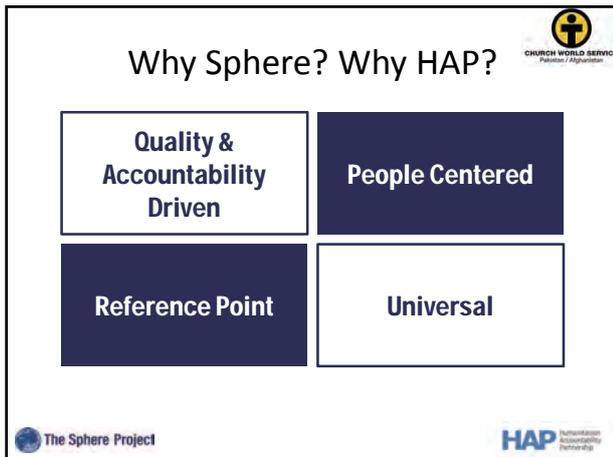
CHURCH WORLD SERVICE
Pakistan / Afghanistan

Implications

- Duplication of efforts
- Waste of resources
- Tension in communities
- Lack of sustainability
- Raising false hopes
- Lack of verification from the communities

Source: National Geographic

The Sphere Project HAP Humanitarian Accountability Partnership



公開シンポジウム(1月31日・東京)
「東日本大震災と人道支援の国際基準～援助の中で周辺化されがちな視点を中心に～」
- ジェイミー・ムン、ウマ・ナラヤナン / チャーチ・ワールド・サービス

Thank You



Uma Narayanan
kn.uma.narayanan@gmail.com
OR
Jamie Munn
jamie.munn@cwspa.org.pk

3.11₂₀₁₁ 東日本大震災

女性から女性へ



Copyright © 2011 みやぎジョネット All Rights Reserved

地元紙 見出し

3月12日(土)・・・
3月13日(日)・・・
3月14日(月)・・・



みやぎジョネットの活動

第一段階 緊急物資支援
第二段階 サロン開催～心のケア
第三段階 講座開催など

特徴

- ・女性から女性へ
- ・個から個へ
- ・ゆったり長い伴走型




上:個人から送られた小さな支援物資
下:ジョネットサロンに参加される支援部隊の皆さん

サロン準備

ソーイングセット届く
タオルが届く

サロンを控え
ジョネットセット作り




プレゼントの化粧品を見て大喜び



サロン光景

お抹茶と季節の和菓子を愉むサロン

弁護士協力

うちわ作りサロン

アロマテラピーサロン






団体設立背景

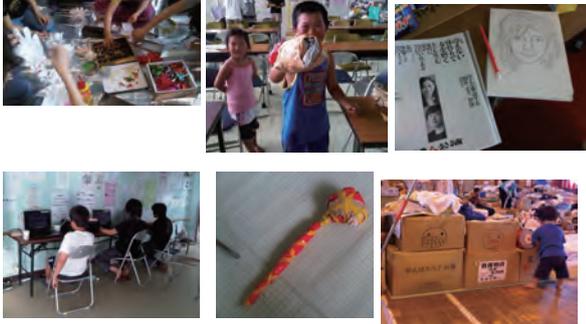
東松島の土葬

- ・身近の惨状
- ・個人に届かない支援
- ・個人の思いの吸上げ

思い出探し
避難所に張り出された写真




避難所の子どもたち



女性・子ども・高齢者などにみられた問題

- ・女性としての尊厳は認められない避難所生活
- ・食事の支度のハードさ
- ・両親を亡くした子がいること、母子家庭のみなど分野ごと実態が半年経てもまとめられていない
- ・心の傷
- ・DVや児童虐待、女性への暴力等
- ・相談の機会がない。夫の監視の目を逃れられない
- ・避難所公的世話人からの執拗なストーカー・暴言行為
- ・溢れる情報

避難所生活



上: トイレの水は雨水利用
下: 避難所のお位牌



上: 1組の夫婦の居住スペース



石巻市内仮設住宅 支援内容

- 洗濯機炊飯器
 - 冷蔵庫
 - 電子レンジ
 - 湯沸かしポット
 - エアコン
 - テレビ
 - 寝具類
- お米30kg
 レトルトカレー30個
 後は・・・自力でどうぞ



避難所から仮設へ引越す方のお荷物



コミュニティ再生支援



仮設住宅の集会所ではじまったサロン
 現地の方の手作りご案内
 メディアサロン



ホームヘルパー2級講座開催

ミシン



薔薇スポンジ



製品の 販売支援

千葉商店



あむあむおっぴ



おんなの語り場



先立つプレスリリースには被災地の女性も同席

ご視察のご案内



現状を見ていただくことは大切と考え積極的に被災地のご案内をしている

女性の援助

韓国女性グループからのご寄付

さてそのセミナーの最後になって、「日本の女性被災者に届けて欲しい」と紙の包みを渡され、開けてみるとお金が入っていました。「韓国女性グループ」は前日の15日からドイツ各地からメンバーが集まりセミナーを開いていたのですが、誰からとなく声があがり、その場にいる人たちがお金を出し合ったそうです。

この日のテーマの一つは家族が体験した歴史を共有しようということで、日本支配下の植民地時代に彼女たちの親がどんな目にあっただか凄まじい話を聞いたばかりでしたので、この寄付には驚き、感動しました。そして、彼女たちの暖かい思いをきちんと活かしてくれる組織(人)に渡す事を約束しました。(池永さんのメールより抜粋)

女性の援助

東日本女性支援ネットワーク

●目的

被災した人々の多様性に配慮し、脆弱性の高い人々の中でも特に女性の権利が満たされる環境を作る。女性の視点が尊重される支援を求め、被災した女性たちが救援や復興に主体的に関わることができるような過程を支えていく。また、救援・復興に関わる団体や個人が、ジェンダー視点を理解し重視する救援活動および復興計画の策定・実施するよう推進する。

●活動分野

- ・調査
- ・政策アドボカシー・メディアワーク・研修・人材育成
- ・支援団体の後方支援・組織強化(人材・物資派遣)

東日本大震災被災地において
子どものニーズに配慮した支援
子どもの声を聴きながら行う復興支援

ワールド・ビジョン・ジャパン
子ども参画アドボカシー・アドバイザー
甲斐田万智子

避難所における子どものニーズ

- トイレ・補助便座の設置
 - 1) 遠くにあると怖い→体育館などの近くに設置
 - 2) 暗いとき落ちそうで怖い→補助便座を設置→
「夜でも怖くなくなった」「ひとりでも怖くなくなった」
- 物資の配布を通して子どものニーズを把握
 - ↓
 - サッカーボール、折り紙、色鉛筆がほしい
 - ↓
 - 遊ぶ場所がほしい
 - ↓
 - チャイルド・フレンドリー・スペースの設置

チャイルド・フレンドリー・スペースとは？

- 特に緊急災害時において、被災した子どもたちが安全に遊んだり、学んだりできる場所
 - CFSは被災で精神的にも不安定になりがちな子どもたちの精神的ショックを和らげる。
 - 子どもの成長にかかせない生活のリズムを取り戻すことで、子どもたちの平常心を取り戻し、今後の復興への希望や期待が持てるように助ける。
- ★ワールドビジョンは2004年スマトラ沖地震緊急支援から12カ国でCFSを設置。ハイチでCFSに携わったスタッフが今回緊急支援時に設置。

緊急災害時の子どもたちの不安や困難

- 被災で体験した恐怖からくる不安感や悪夢
- 被災で家族、親戚、友達を亡くした悲しみ
- 被災で日常当たり前だった生活が失われ、明日のことも予測できない不安感
- 両親や家族と離れ離れになってしまい、行方がわからない
- 余震など、次に来るかもしれない震災への恐怖

登米市の避難所に
チャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)を設置

- 登米中学校体育館
- 登米児童館
 - ・ 平日午前中 未就学児童が1～3名
 - ・ 土曜日 1～30名
- 歌津中学校
 - ・ 毎日 未就学児童が10名
- 旧善王寺小学校
 - ・ 月～金 午後1時半～3時 小学1, 2年生
 - ・ 月～金 午後3時半～5時 小学3～6年生

説明責任 ～ニーズと情報共有

- 子どもたちのニーズ
＝遊びたい
に答える。
- 「CFSとは何か」を
子どもたちに説明
＝インフォームド・コンセント



© ワールド・ビジョン・ジャパン

子どもたちとの話し合い ～子どもの参加する権利＝意思決定過程

- 子どもたち*とミーティングを開き、週に何回、何時間を開くか話し合う。
→週3回、1時～3時まで
- 子ども自身が名前も決める→「全員集合」
- 子ども自身が運営ルールを話し合う。
→宿題の終わった子どもから遊べる。



©ワールド・ビジョン・ジャパン
*小学生が中心。+中学生と幼稚園生の計20～30名

子どもの保護される権利・回復する権利を実現

- 子どもたちと保護者の心のケア・安定感が得られた。
- 保護者が子どもが自分の手から離れた時間を持てるようにすることにより、ほっとすることができ、子どもを(親のストレスなどから)守ることができた。
- 子どもは非日常的な環境の中、数時間「日常」を取り戻す→子どもが希望を持てるようになった。

スタッフやボランティアがすべきこと

1. 子どもの安全性の確保
2. 子どもにとって最善の選択(最善の利益)
3. 震災のことは、こちらから聞かず、子どもから話してくれるときは聴くことに。肯定的オウム返し(アドバイスは不要)
4. 事前に許可のないメディアは受け付けない
5. オレンジTシャツ、名札の着用
6. 常にポジティブ対応。大きな声、明るい笑顔、皆さんにあいさつ。

学校再開後もCFSを継続

- 5月12日 南三陸町の戸倉小学校が登米の旧善王寺小学校で再開
- プレハブ教室でCFS
- 子どもたちをスクールバスで送迎。
- アルバイトを雇用
- トレーニングの実施
参加者: アルバイトスタッフ4名/ドライバー2名
/ボランティア3名(P&G)、子どもチーム(3名)
(アルバイトは、地域のお母さん)

トレーニング内容

1. 子どもの権利条約について
 - 子どもの権利条約の内容
 - 中身を紹介し説明する
 - 子どもの最善の利益、差別しない
 - 守られる権利についてのゲーム
2. CFSの必要性、すべきこと
 - 子どもの安全確保、安全に遊べる場所の確保
 - 性的搾取からの保護
 - 親のストレス軽減、一日の生活のリズム
 - 子どもの居場所、ケースマネジメント
 - 保護者や地域とつながる

CFS運営にあたってすべきこと

- ①行政に働きかけ、行政ができないところをやる、その許可をとる
- ②戸倉小校長との合意
 - ・場所: 安全性と安心感(広さ、騒音、戸外遊び)をチェック/全員保険加入
 - ・人員: 経験者、有資格者、地元人(子どもの状況を知る、同じ方言と文化)、子どもが好きな人
 - ・スタッフと子どもの比は1:5くらいにする
- ③チャイルドプロテクションポリシー
2011年5月だけで100人のボランティアがCFSに入る)
- ④資金と備品: 物を揃える(マット、救急箱、名簿、絵本、おもちゃ、(安全かつ子どもにとって最善)

CFSを始めてから気をつけること

- 子どもの出席状況(誰が来て誰が来てないかをチェック、学年で一人だけ来てないと要注意)
- ニーズに合致しているかどうか:来ていない子の声を拾う
- 活動の改善
- 差別をしない:男女比/障害者
- * 被災地での他の団体の活動を知る
- * 虐待について
- 心理士のスタッフによる密室性などについて説明
- * スタッフの心構え(チャイルドプロテクションポリシーの理解など)

子ども参画事業～復興に向けて復興計画に子どもの声を反映させる

- 2011年11月14日 戸倉中学校総合学習 漁港の見学とワークショップ「戸倉の魅力とそれを活かすアイデア」
 12月5日 南三陸町震災復興推進課、教育委員会と協議
 12月 南三陸の5小学校、3中学校、1高校にアンケート。880人から回答。
 2012年1月15日、21日、28日、29日に子どもによる復興提言ワークショップ。1. 課題、2. 目標の姿、3. 具体的な行動、4. 誰が、5. いつまでに という5項目を話しあう。
 1月29日に町長と復興計画について意見交換会
 →「公民館の設置」「街灯の設置」「お年寄りの生活不活発病対策」「カフェ」などを提案
 3月25日に「子どもに笑顔を」復興計画を発表予定。

おわりに 課題と提言

- 緊急支援活動において課題
- NGOがニーズを尋ねる相手は責任者に限定されていることが多い→責任者が子ども、女性のニーズをきちんと把握しているかわからない。
- 責任者が子ども、女性に尋ねる必要がないと考えている可能性も大きい。
- 責任者が伝統的な考え(男性、おとな優先)を持っている場合、子どもの最善の利益が達成されない。
- 提言
- 責任者に対するチェックリストを配布。
- 子どもや女性、マイノリティのニーズを聞き出すための地元の人を特定し、その能力を強化するトレーニングをする。

おわりに(つづき)

- 復興活動において～災害前よりも周辺化される人(子どもなど)の人権が尊重される社会に
- 課題
- NGOの実践によって子どもの声が聴かれる子ども参画が進んでも、それを広げる体制が社会にない。
- 子どもに大きくかわかる決定において子どもの声が聴かれない。子どもの最善の利益の原則が尊重されない。
- 提言
- 前例をなるべく多くつくる。
- マスコミに多く取り上げてもらう。
- 行政のなかで賛同者を増やす。行政の人に対して子ども参画に対する理解。研修。文部科学省からの協力。
- 子どもの力を示す

ご清聴ありがとうございました。



1月29日 南三陸町の町長と意見交換会を終えた子どもたち

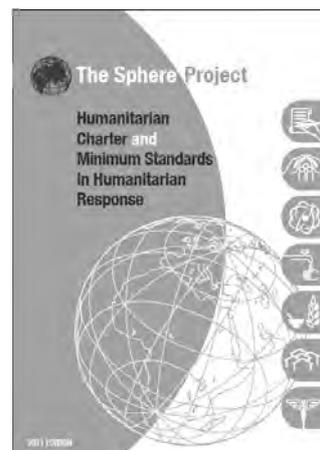
【本 NGO 研究会で使用・紹介したプロテクション・スタンダード】

● **The Sphere Project: Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response**

(スフィア・プロジェクト: 人道憲章と人道援助に関する最低基準)

<http://www.sphereproject.org/handbook/>

第 1 回～3 回ワークショップおよびシンポジウムで使用・紹介。1997 年に人道援助 NGO と国際赤十字・赤新月運動によってプロジェクトが開始され、2000 年にハンドブック第 1 版を、2004 年に第 2 版を発行。2011 年 4 月には新たにプロテクション原則を規定した新章を挿入した第 3 版が発行された。本 NGO 研究会では、第 3 版に基づきワークショップ・シンポジウムを実施すると共に、日本語版の翻訳・発行も実施した。

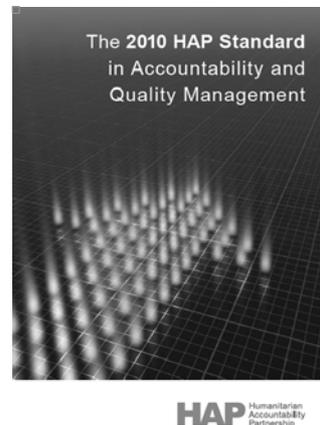


● **The 2010 HAP Standard in Accountability and Quality Management**

(人道支援の説明責任(アカウンタビリティ)と品質管理(クオリティ)に関する HAP 基準 2010)

<http://www.hapinternational.org/projects/standard/hap-2010-standard.aspx>

第 1 回ワークショップおよびシンポジウムで使用・紹介。基準を作成した HAP インターナショナルは、2003 年に創設された、人道危機で被害を受けた人々に対する人道支援活動の説明責任を改善することを目的とした会員制組織である。2007 年に初版が発行され、その後の実践を通して得られた教訓を反映させて 2010 年版が作成された。2011 年 11 月には日本語版が作成されている。



2011 年度 外務省 NGO 研究会 事業報告書

「国際協力における NGO の役割」

2012 年 3 月発行

発行 外務省国際協力局民間援助連携室

編集・事務局 認定 NPO 法人 難民支援協会

〒160-0004

東京都新宿区四谷 1-7-10 第三鹿倉ビル 6 階

TEL: 03-5379-6001 FAX: 03-5379-6002

URL: <http://www.refugee.or.jp/> E-mail: info@refugee.or.jp

印刷・製本 株式会社ミツワ

©2012 Japan Association for Refugees Printed in Japan



認定NPO法人 **Japan Association for Refugees**
難民支援協会